

さいたま市障害者社会参加推進センターだより



ぱらネット

第39号

～コロナと ともに～

さいたま市障害者社会参加
推進センター

生活訓練・家族教室



令和2年度 社会参加推進センター開催事業報告

事業名	開催日/場所	参加者数	テーマ・内容等
家族教室開催事業(身体)	10月11日(日) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	50名	障害があってもなくても みんなで芝居の世界に飛び込もう! 講師:劇団SAKURA 前線
生活訓練開催事業(精神)	10月18日(日) 浦和コミュニティセンター 第14集会室	32名	共に作ろうみんなの輪 ～よりよい人間関係をつくるために Part 3～ 講師:相川 章子氏 聖学院大学教授
家族教室開催事業(精神)	11月7日(土) 浦和コミュニティセンター 第15集会室	42名	薬物治療のアドヒアランスの向上について 講師:吉尾 隆教授 日本精神薬学会理事長 東邦大学薬学部医療薬学教育センター臨床薬学研究室
生活訓練開催事業(身体)	11月21日(土) 与野本町コミュニティセンター 多目的ルーム(小)	52名	聴覚障害者のための特別講演 ～手話狂言・苦労話～ 講師:井崎 哲也氏 日本ろう劇団顧問
家族教室開催事業(身体)	11月29日(日) 浦和コミュニティセンター 第15集会室、Zoom参加	32名 他 Zoom参加	摂食障がい未来を語ろう 3つの視点から現代の「摂食障害」を考察 講師:野間 俊一氏 臨床心理士・相良 翔氏 社会調査士
家族教室開催事業(身体)	12月19日～1月23日 全4回 浦和コミュニティセンター 第7集会室	60名 15×4	中途失聴者・難聴者・家族のための手話教室 講師:浅野 和世氏 *コロナ感染症拡大のため後半4回中止
家族教室開催事業(精神)	1月10日(日) 浦和コミュニティセンター 第15集会室、Zoom参加	30名 Zoom参加 50名	知ってください 失語症 講師:春原 則子氏 目白大学保健医療部 言語聴覚学科 教授 学科長

* 14事業開催予定でしたが、コロナ感染症拡大防止のため、7事業の開催となりました。

さいたま市精神障害者
家族会連絡会

家族教室に参加して

「薬物治療のアドヒアランスの向上について」(精神家族会教室主催)をテーマとした講演会がこのほど、講師に東邦大学薬学部吉尾隆先生をお招きして開催されました。

一般にはなじみの薄い「アドヒアランス」という言葉。アドヒアランスはHIV感染症の治療から始まり、医師と患者さんの「相互理解」が基本になっています。患者は病気について理解し、医療の中でも約束を守る。症状や治療について十分に理解し、良好な状況にあることが大切です。服薬を嫌う理由として、患者の半数が、薬が多すぎると思っており、副作用が辛いと感じ、拒否して自己防衛している。副作用も知りたいのに情報が少ないなどの先行きの心配がある。リカバリーとしては、本人が社会で生きていけるようになる



鈴木 義男

のが回復につながる。医師も薬の量を減らすようにしている。以前の状態に戻ろうとするよ、今現在と、今後を考えて生きたい。薬の効果と副作用を知ること大切。2種類までの薬は多剤にならない。薬をやめると60%の人は再発。再発しない人もいるが、理由は分からない。家族として主治医に聞く場合、「症状を簡潔にまとめ一つにす」とアドバイスがありました。当日は、新型コロナの影響で入場制限の中、家族会・一般・当事者など42名が聴講しました。

さいたま市精神障害
当事者会ウィーズ

よりよい人間関係をめざして

皆さん、こんにちは。私達、さいたま市精神障害当事者会ウィーズでは、去る、2020年10月18日(土)に、ウィーズ生活訓練事業、共に作ろうみんなの輪PART13として、聖学院大学の相川章子先生を講師にお迎えし、「よりよい人間関係をつくるためにPART3」を開催しました。毎回、好評を博しているシリーズの第3弾です。

先生には、毎回、グループワークを交えながら、分かりやすく講義していただいています。とはいえ、今年度はコロナもあり、会場作りには細心の注意を払って行われました。まず、話されたのは、アルフレッド・アドラーの「人間の悩みは全て対人関係の悩みである」ということでした。それから、自己紹介、他己紹介が行われました。他己紹介は、まず、



稲葉 晃

相手のことを知らなければできないので、難しかったです。「それから、誰との関係で悩むか」「どんなときに悩むか」を、グループで共有しました。それから、「他者は仲間である」ということを学びました。それから「いいとこスケッチ」が行われました。これが、面白く良いところを書いたり、書いてもらったりすると、嬉しかったです。最後に、「自分を大切にできない考え方」を自覚し、それから開放される考え方の練習をしました。全体を通して、人間関係を作るヒントになれば、幸いです。来年度も、また、相川先生をお招きできると良いと思っていますので、よろしくお願いたします。

さいたま市聴覚障害協会 生活訓練事業と家族教室事業

今年度も「生活訓練事業」と「家族教室事業」を開催しました。

生活訓練事業でのテーマは「手話狂言〜苦労話」で、講師に日本ろう劇団顧問、そしてトット文化館手話教室の講師でもある井崎哲也氏にお願いしました。

井崎氏の講演では、「狂言」での動作や間など、分かりやすく説明したり、実際に演じていただきました。

私は「狂言」とは何だろう？私達ろう者には理解しにくそう
で、歩き方もすり足で、しかも
着物で芝居をやることは面白い
とは思えないと感じていました。
しかし、「手話狂言」という公演
があることを知り、見に行きま
した。手話での狂言を見て、物
語の流れも理解できました。

演者にとつての苦労、三宅右
近先生の厳しい稽古にも耐え、

井崎さんは毎年公演をしてお
られます。

家族教室事業では前年度に引
き続き、中途失聴者・難聴者の
ための「手話教室」を開催しま
した。8回の開催予定が緊急事
態宣言が発令され、施設の休館
のため、4回しか開催出来ませ
んでした。参加者は15名で、や
はり、手話の必要性を感じてい
る中途失聴者・難聴者がいるこ
とがよく分かります。

今回は残念でしたが、来年度
は十分に学習できればと思っ
ています。

青山 淑子



高次脳機能障害さいたま これからの道

私たちにとつての、 もう一つの「はじめの一步」

私たちは、高次脳機能障害当
事者が「はじめの一步」を踏み出
すことを支援する活動をしていま
す。令和2年度さいたま市障害
者社会参加推進事業「家族教室」
は、新型コロナウイルス感染症緊
急事態宣言の再発出が予想され
る状況でしたが、「去年から取り
組み始めた、目白大学さんの高
次脳機能障害当事者支援は継続
するべき」と、会場開催をオンラ
イン開催に変更して目白大学さ
んと一緒に準備を始めました。
この決断が功を奏して、緊急
事態宣言発出のわずか、3日後
の今年1月10日、オンライン開
催と会場開催の併催で、無事に
「家族教室」を実施することが
できました。

コロナ禍での開催は不安でし
たが、目白大学リハビリテーショ
ン学研究科教授の春原則子先生

をお迎えし、「知ってください失
言症」として、高次脳機能障害
当事者にも焦点を当てて、失言
症当事者の社会参加などについ
て話し合い、当事者、家族で深
く分かり合うことができました。

計画を立てて実行することが
難しい高次脳機能障害ですが、
家族、支援者さんたちの力を借
りながら実行でき、オンライン
の活用でコロナ禍を乗り越え
たのですから、ご参加いただい
た当事者さんには「もう一つの
「はじめの一步」を踏み出せた」
と感じていただければ幸いです。

ご協力い
ただしまし
たスタッフ
の皆さま、
どうもあり
がとござい
ました。
渡部 真喜



みつくすビート

障害があってもなくても

みんなで芝居の世界に

飛び込もう

10月11日に、さいたま市障害者社会参加推進事業のイベントを浦和コミュニティセンターで行いました。講師に劇団S A K U R A 前戦さんをお招きして観劇や殺陣のお話を聞きました。ストーリー性重視の分かりやすい芝居を目的とし、チャンバラやダンスなどを織り込んだ派手な演出が特徴的な作品を作り続けている劇団です。

当日は新型コロナウイルスの影響が懸念されましたが、無事に開催できました。コロナ対策は消毒と体温計の設置、定期的な換気を行いました。さらに劇団の方々の計らいでお芝居もセリフのない作品でしたので飛沫感染防止にもなり安全かつ素敵なイベントとなりました。

お芝居は「仇討ち・しぐれ傘」と言い、荒くれ者たちに兄を斬

られた一人の娘が間一髪の所で義賊の女に助けられる。そして兄の無念を晴らすべく義賊の下で刀を手に成長していくという作品です。セリフはなかったのですが、娘の成長過程のシーンでは義賊たちの辛い修行も一生懸命乗り越えて成長していく姿が分かりやすく描かれており感動しました。殺陣のシーンでは派手な演出や音楽によって、いつまでも飽きることが無く、とても見応えがありました。

後半の部に行われた殺陣のお話も足の運び方や刀の振り方など普段聞けないような貴重なお話で楽しい時間を過ごせました。来ていただいた人達も圧巻な芝居にみんな笑顔でとても素晴らしいイベントとなり嬉しい限りでした。

宮川 季之



編集後記

さいたま市障害者社会参加推進事業の「家族教室」「生活訓練事業」はコロナ禍の緊急事態宣言などにより、多くが自粛となりました。仕方ないとはいえ、とても残念です。不幸中の幸いとして7団体が事業を開催できました。ここに、無事開催できた5団体の事業の様子を掲載しました。皆さん懸命に運営していることがうかがえます。

今、緊急事態宣言は再延長となり、まだ予断は許されない状況です。それでも、感染者数は確実に減ってきています。ワクチン接種も間もなく始まるでしょう。コロナの危機が過ぎて、また安心して暮らせることを願ってやみません。

(竹内 政治)

発行 さいたま市障害者

社会参加推進センター

〒330-0801

さいたま市大宮区土手町

一三三〇一

大宮ふれあい福祉センター4F

TEL 〇四八・六五三・七二七一

FAX 〇四八・六五三・七三三二

http://www.saitama-planet.com/

e-mail saitamacity-handynet@

bz03.plala.or.jp

発行・編集人 中野 勇